

ギンギンも薬効成分の宝庫

<作成: stnv基礎医学研究室>

ギンギン

anthraquinones
アントラキノン



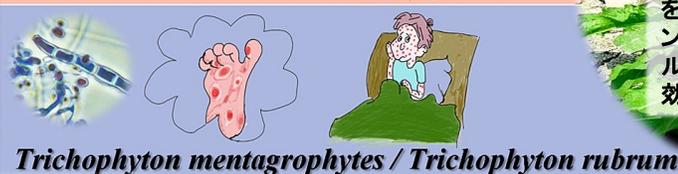
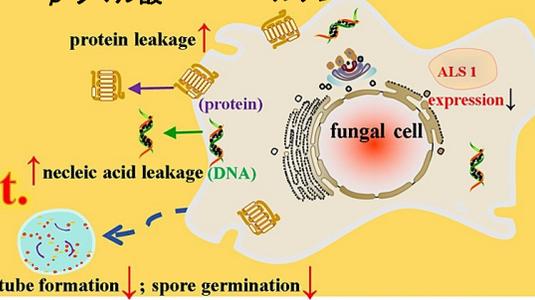
flavonoids
フラボノイド



polyphenols
ポリフェノール

抗真菌作用

単独で強い抗真菌作用を示すのはアントラキノンであるが、ポリフェノールやフラボノイドが相乗効果を生み出す



抗白癬菌

抗カンジダ
Candida albicans

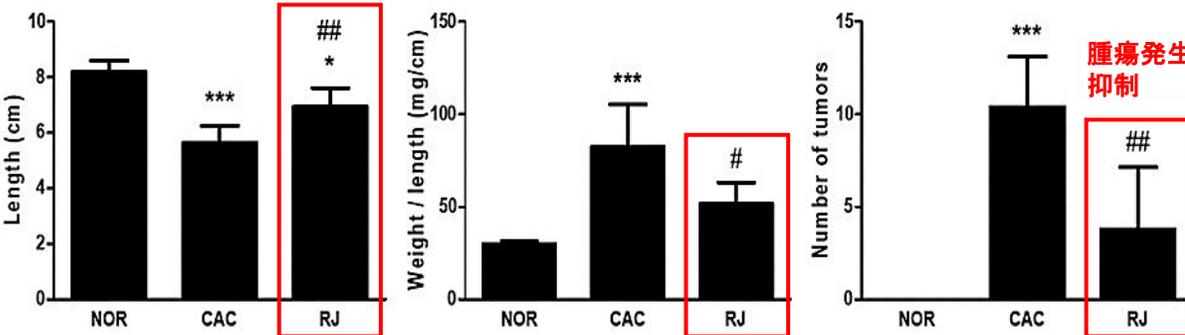
Rumex japonicus Houtt.

ギンギン

(原図の出典: Journal of Medical Mycology, Volume 34, Issue 4, December 2024, 101513)

抗がん作用

右図は、正常マウス「NOR」と、発がん物質(特に大腸炎と大腸がんが誘発される物質)であるアゾキシメタン(AOM)とデキストラン硫酸ナトリウム(DSS)を投与した群「CAC」と、それにギンギン抽出物を併用した群「RJ」の、結腸収縮の抑制、結腸重量と長さの比、結腸における腫瘍発生抑制を示している。



NOR: 通常飼育の正常マウス
CAC: colitis-associated colorectal cancer: 大腸炎関連結腸直腸がんを誘発されたマウス
RJ: *Rumex japonicus*: CACと同様に発がんを誘発され、併せてギンギン抽出物が投与されたマウス



(原図の出典: Front. Pharmacol., 05 July 2022, Sec. Ethnopharmacology, Volume 13 - 2022)

スイバはシュウ酸が多くて酸っぱく、葉の裏面の葉脈が目立たない↓

ギンギンは葉の裏面の葉脈が目立つ↓



【その他の作用(ギンギンに含まれるアントラキノン類、フラボノイド類、ポリフェノール類の組み合わせによる相乗作用であると捉えるべき)】抗酸化、抗炎症、胃腸粘膜保護、血管保護、抗高血圧、抗動脈硬化、緩下(主にアントラキノン類による)、利尿、ミトコンドリア保護、ネクローシス抑制、ニューロン保護、収斂(ポリフェノールによる)など